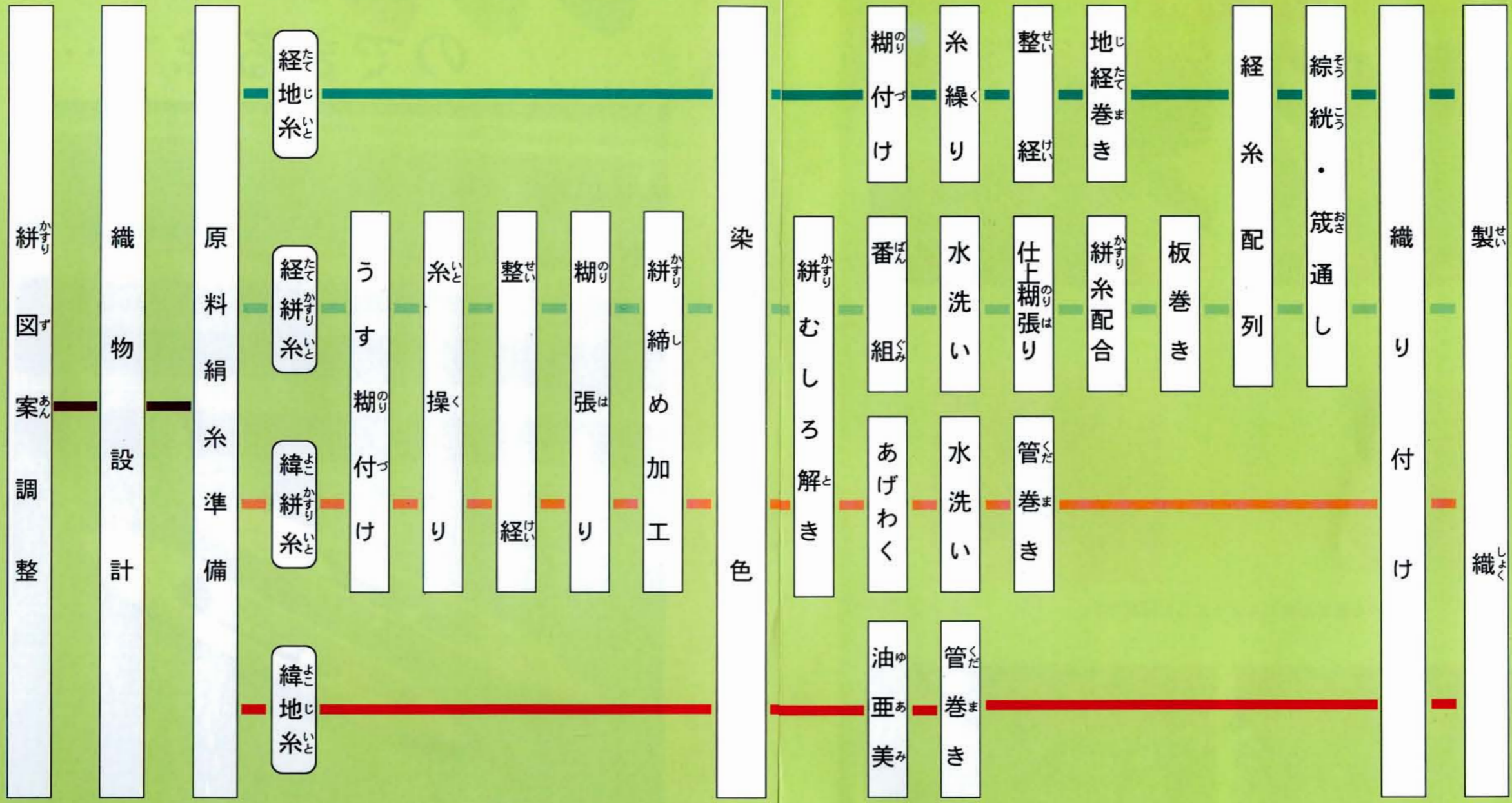


大島紬

のできるまで…。



大島紬の製造工程



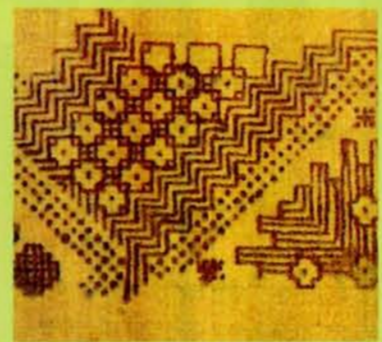
図案 ずあん

大島紬の柄がら（もんよう）は、奄美の自然の中の植物や動物をヒントに作られているものが多くあります。ソテツの葉、どくへびハブの皮、亀のこうら、魚の目の例を見てみましょう。

ソテツ柄



ソテツは、奄美のいたるところで見られます。



ソテツの葉の形をもんようにした図案です。



ソテツの葉のもんようが使われているたつごう柄がらの大島紬

ハブ柄



ハブの皮も大島紬のもんように使われています。



ハブの柄がらの図案

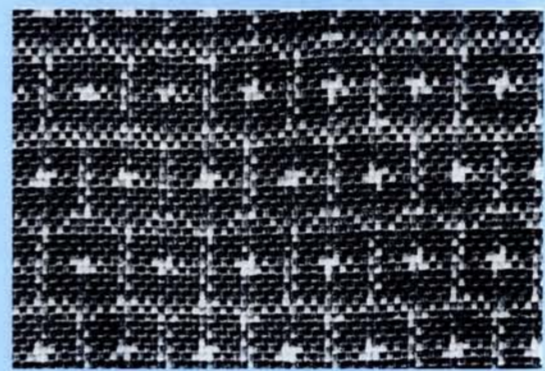


ハブの柄がらの大島紬

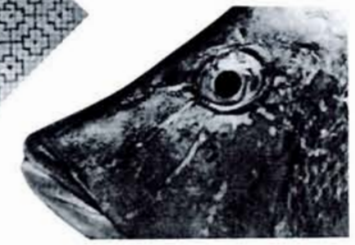
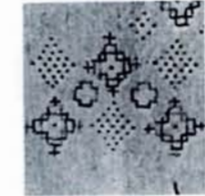
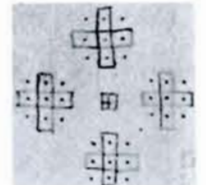
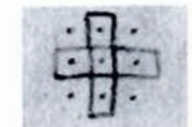
亀甲柄きっこう

亀甲がらの柄は男物の大島紬では一番多く使われています。亀のこうらは、長生きの象徴で、めでたいものとされています。

このように、着物の柄がらには願いを込めて作られたものが多くあります。



魚の目（イユンム）から考え出された文様



糸

いと

きじやく たん
着尺1反をつくるには

かいこ
蚕

1700頭

くわ
桑の葉

65kg

かいこは
桑の葉を食べて
大きくなります。

まゆ1粒で
1100メートルから
1400メートルの糸が
とれます。

まゆ
繭

1600粒(3kg)

きいと

生糸(600g)



拡大写真(3000倍)

たん

1反(450g)

1反の着尺には、まゆの糸にして
2000キロメートルもの糸を使います。
鹿児島から青森よりも遠い距離です。

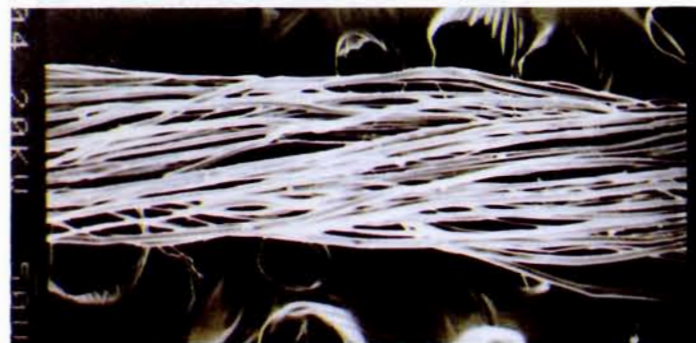
蚕の発育順序模型
LIFE CYCLE OF SILKWORM



蚕は卵からかえると4週間ぐらいで成長が終り、2~3日で繭を作りあげる。
その後、蛹、蛾と姿をかえ、卵を生みます。

原糸をさらに
5~10本束ねる。

7本程度を束ねる。
(原糸)



拡大写真(100倍)

大島紬に使われる糸の太さは、だいたい1ミリメートルの3分の1ぐらいです。
まゆの糸を60本ぐらいより合わせて作ります。

染

そめ

じいと せんしよく 地糸の染色



染める前の絹糸



テーチ木染め (36回)



熱液染め6回
テーチ木染め40回
泥染め3回

かすりいと たていと 絣糸の染色工程 (経糸の例)



電子顕微鏡で見た泥染めの様子(400倍)

まゆの糸の太さは100分の1ミリメートルぐらいです。染めた後、糸が太くなっているのが分かります。

泥染めは大島紬の最大の特徴です



テーチ木



テーチ木を砕いてチップにし、釜にいれて煮つめ、染める液をつくる。



煮汁をなべに移し、絹糸を入れてもみ込む



じいと 地糸



かすりいと 絣糸



テーチ木で数十回染めた後、泥染めを行う。このあと、再びテーチ木で何回も染め、また泥で染める。この工程を何回かくり返します。

石灰の汁でもみ込む

テーチ木で3回染めるごとに石灰の汁でもみ込む (この工程を何回もくり返す)

泥染め大島紬の特徴

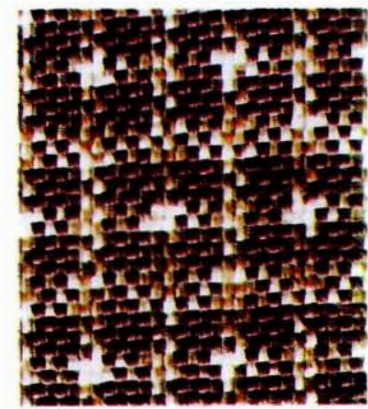
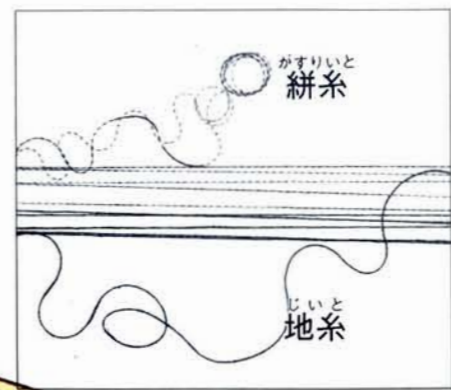
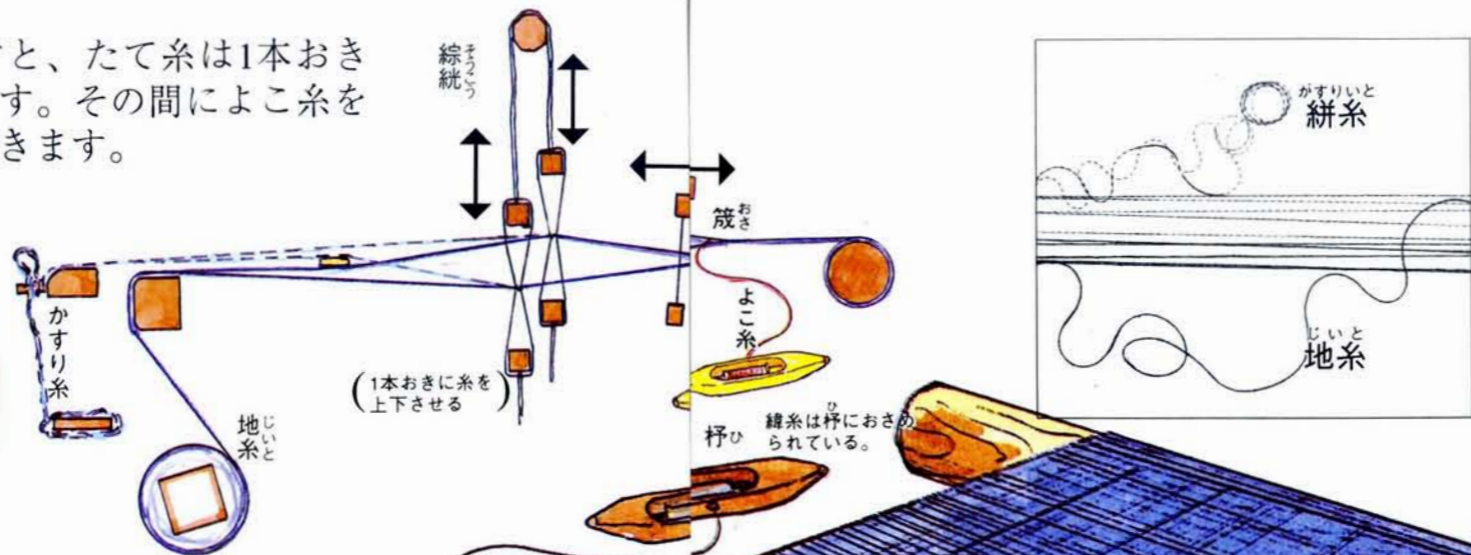
- 暖かい
- しなやかな地風
- しわになりにくい
- 素朴で渋い色調
- 着くずれしにくい
- 絹ずれの快い音

織おり

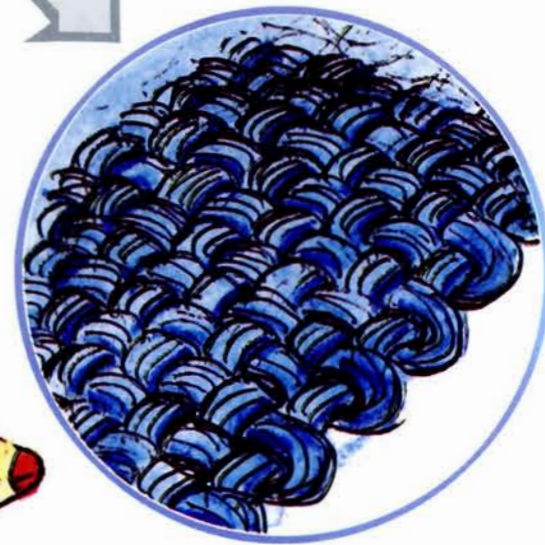
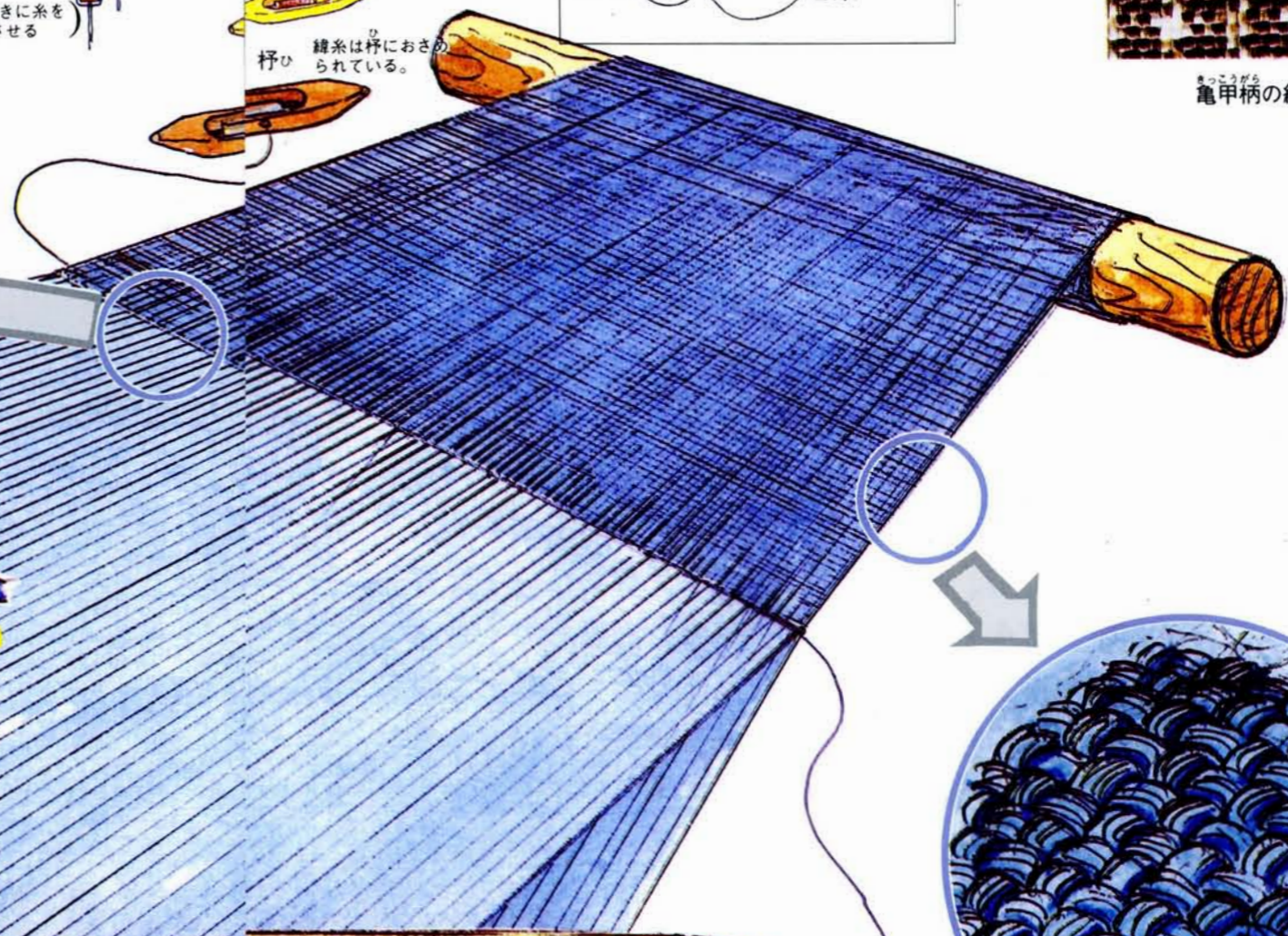
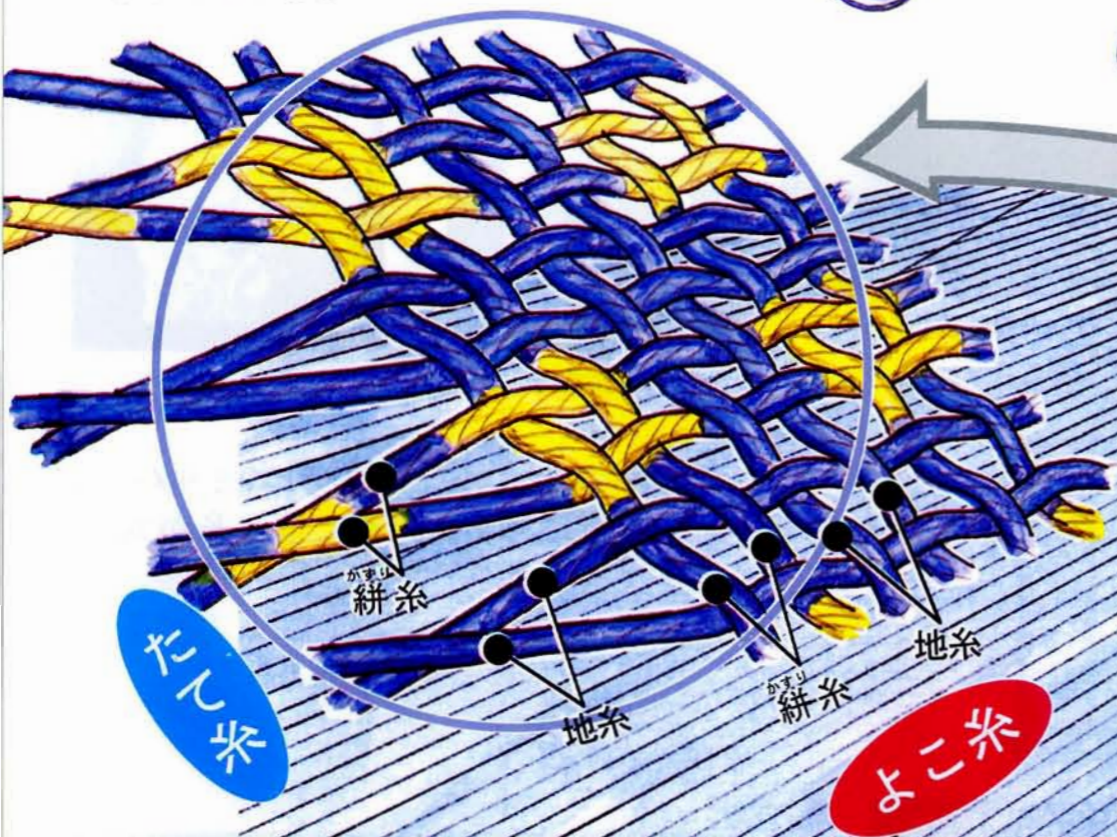
そうこうを動かすと、たて糸は1本おきに上下に分かれます。その間によこ糸を通すと平織りができます。

かすりいと 絣糸でもようができるわけ

(実際は、糸と糸の間にはすき間がありません。)



亀甲柄の織物



大島紬は平織です



杼 (シャトル) 杼は地糸用と絣糸用があります

たて糸の本数は、^{おき} 箆の密度(算)と、^{よみ} 箆の幅で決まります。
 15.5よみ(1240本)がよく使われます。
 13よみ、18よみの製品もあります。
 たてかすり糸の本数はマルキという単位で表わされます。1マルキはかすり糸80本で5.8マルキ(絣糸466本)、7.2マルキ、9.6マルキ(絣糸770本)等があります。